

自由業大学生のための資格業ガイダンス（南山大学）報告

日時：令和7年5月21日（水）12時45分から17時10分

場所：南山大学 S棟2階



5月21日に南山大学で開催された大学生のための資格業ガイダンスに参加しました。これは調査士を含め9士業10団体で構成される名古屋自由業団体連絡協議会が主催し、名古屋大学、愛知大学、愛知学院大学、名城大学、南山大学において開催しているものです。南山大学での開催は今回が初めてです。

土地家屋調査士の他、弁護士、公認会計士、税理士、司法書士、行政書士、社会保険労務士、弁理士、不動産鑑定士の広報担当者がそれぞれのブースに分かれて、大学生の相談を受けていました。ガイダンスは事前申し込みが可能で、当日までに30名程度の申し込みがあり、当日参加の学生も合わせて100名ほどの学生が相談に訪れました。開催時間は13時35分から17時10分までの3時間半程度でしたが、相談者が途切れることはほとんどありませんでした。

土地家屋調査士のブースには5組9名の学生が相談に訪れました。そのうち経営学部、経済学部の学生が合わせて6名、法学部の学生が2名、卒業生が1名でした。経営学部、経済学部の学生は、公認会計士や税理士の資格取得を考えていたようですが、調査士の試験内容や仕事内容などを紹介すると、とても興味深く聞いてくれました。法学部の学生は、2名とも弁護士の資格取得を目指しており、その上で弁護士に関連する他士業の業務知識を得たいと考えているようでした。調査士と弁護士の業務上の関連性や、その具体的な事例などを紹介し、他士業の知識を得ることや他業種の方とのつながりを持つことの重要性を説明すると、最後には「調査士の資格取得も目指してみたいくなった」とうれしい言葉をいただきました。



相談に訪れた学生のほとんどは、土地家屋調査士という資格があることも知りませんでした。ただ、その知名度の低さが調査士の職業としての魅力ともいえると思います。実際に学生の方にその点を伝え、「知る人ぞ知る国家資格」「安定した収入」「自由な働き方」といったキーワードを思い起こすのか、前のめりな姿勢で質問を返してくれる方が多かったです。土地家屋調査士の広報活動を行う上で、今後も引き続きアピールポイントになるだろうと感じました。

（前広報部員 岡地裕治）